

原子力規制庁体験プログラム 報告書

2023年9月1日

九州大学医学部保健学科放射線技術科学専攻3年

瀧田 健汰

令和5年8月28日から9月1日の5日間、原子力規制庁体験プログラムに参加させていただきました。私が配属されたのは、放射線・廃棄物研究部門という部門で、私はその中でも放射線防護班という、放射線審議会を運営する放射線防護企画課の取り扱う法令や政策などの基盤を研究・調査する部門に配属していただきました。

本インターンシップでは、主に委員会傍聴・グループワーク・配属先実習・インターンシップ生同士の懇談会というプログラムを体験させていただきました。

委員会傍聴では、実際に法令の変更案を承認・確認する場面を傍聴することができました。私が傍聴した委員会では、「ALPS処理水の放流について」や「原子力発電所の稼働年数を40年から60年に変更することについて」など今日の日本のメディアでも取り扱われている内容が多く、社会における放射線の認識や重要性について深く学ぶことができたとともに貴重な委員会傍聴という体験ができたと思います。

グループワークやインターンシップ生同士の懇談会を通して、全国様々な学部生の方や修士の方とコミュニケーションをとることができました。北海道大学や東北大学など九州ではなかなかお話しする機会のない方の話を聞くことで、私自身の将来の視野を広げることができました。また、グループワークでは、話し合いの進め方だけでなく、実際に学会に参加している修士の方々にパワーポイントの正しい作り方などを教えていただくことなどもできました。様々な地域の方々や様々な経験をしている方々とコミュニケーションをとることで、良い経験になりました。

配属先実習では、上記したように放射線・廃棄物研究部門の放射線防護班に配属していただき、放射線の防護に関して深く学ばせていただきました。私が本実習で主に内部被ばくによる預託実効線量と預託実効線量係数、濃度限度について取り扱い、多くの預託実効線量係数に関与する要素について学び、それが複雑に絡み合って1つの値を算出し、さらに、それを用いて濃度限度を算出していくという過程を学びました。特に、化学形、粒径、核種による体内動態の違いによる預託実効線量係数についてICRP OIR Data Viewerというソフトウェアを用いて考察をし、理解を深めることができました。

原子力規制庁体験プログラムの全体を通しての所感は、放射線防護についての理解を深めることができたとともに、普段体験することの難しい貴重な経験ができました。また、原子力規制庁というのは、総合職、行政職、研究職が混在し、密接に関わっている組織で5日間を過ごし、視野に入れている研究職の体験だけでなく、行政職についての業務内容ややりがいというのを肌で感じるすることができました。今回のインターンシップで学んだこと、感じたことを活かし、今後の進路を考えていくとともに、後輩や同期に伝えていくべ

きだと感じました。

最後にはなりましたが、本インターンシップに参加するためにご尽力いただいた藤淵教授、荒川先生、加えて、実施期間中に大変お世話になりました人事課の皆様、高橋班長、中嶋さんをはじめとする放射線・廃棄物研究部門の皆様に心より感謝いたしております。